

授業科目名	国際観光論	単位数	2
担当教員名	遠藤 理一	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>星槎大学は、「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束のもと、「人と人、そして人と自然とが共生する社会の創造に貢献する」を教育理念としています（星槎大学ホームページより）。</p> <p>本授業では「国際観光」についての知識と視点を学びますが、これは観光産業の事業内容についてだけでなく、ツーリストとホスト社会の人々との「出会い」について、またそれらの時代や地域によるバリエーションについての学習を含みます。これらの学習をつうじて、人々の移動が活発化する現代における「共生」「共感」に関する課題や可能性について考える力を獲得することをめざします。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>①国際観光が発展してきた歴史的背景と現状についての知識を得る。</p> <p>②国際観光に関する諸現象について、社会学・観光社会学の基本的なキーワードを用いて理論的に考えられるようになる。</p> <p>③国際観光にはどのような問題があるのか、またどのような可能性があるのかについて、歴史的・理論的に考えられるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>21世紀は「観光の世紀」とも呼ばれているように、日本でも国際的にも、この20年間に観光産業の規模や旅行者数は数倍に増え、観光産業は世界GDPや雇用の約10%を占めています。また経済的効果だけでなく、観光はツーリストや現地の人々の人生のなかで意味をもったり、都市や観光地の文化を生み出したり変化させたりする場合があります。こうした観光のインパクトについて様々な学問分野で議論が重ねられ、それを理論的に説明する概念が編み出されてきました。</p> <p>この授業では国際観光の歴史的背景や現状について学ぶとともに、社会学や人類学、歴史学での観光にかんする議論を紹介します。そして国際観光についての歴史的・理論的な理解を深めることを目指します。</p> <p>また、コロナショックによる観光産業への大打撃に表れているように、観光現象は社会事象によって短期間で大きく変動する現象でもあります。そこで本授業ではテキストの解説に加えて、近年議論されている事例とそれに関する理論を紹介することで、現代の国際観光の問題や可能性についても検討したいと思います。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：観光とは何か/観光学とはどのようなものか（第I部 第1章/第2章）</p> <p>第2回：近代的観光の発展（第I部 第3章）</p> <p>第3回：ポストモダン社会と観光（第I部 第4章）</p> <p>第4回：観光客のまなざし（第III部 第1章）</p> <p>第5回：真正性（第III部 第2章）</p> <p>第6回：伝統の創造（第III部 第3章）</p>			

第7回：ディズニーランド化（第Ⅲ部 第4章）
第8回：メディア（第Ⅲ部 第5章）
第9回：観光経験（第Ⅲ部 第6章）
第10回：パフォーマンス（第Ⅲ部 第7章）
第11回：ホスピタリティ（第Ⅲ部 第8章）
第12回：遊び（第Ⅲ部 第9章）
第13回：ジェンダー（第Ⅲ部 第10章）
第14回：ポストコロニアリズム（第Ⅲ部 第11章）
第15回：観光まちづくり（第Ⅲ部 第12章）
定期試験

スクーリングでの学修内容

- ①国際観光の基本的なしくみや、歴史的背景と現状について概説します（シラバス授業計画の第1回、第2回の内容を含む）。
- ②国際観光にかんする現象を理論的に捉えるための基本的なキーワードについて、国内外の具体的な出来事を例示しながら説明します（シラバス授業計画の第3回～第15回の内容を含む）。
- ③2015年以降の国際観光の特徴について、それらにかんする社会学や観光学領域での議論の蓄積を紹介しながら説明します。（観光と差別/民主主義、オーバーツーリズム、コロナ禍における観光など）
以上について、ZOOMでの音声やチャット機能を用いたディスカッションといった、アクティブラーニングの手法も用いて実施します。

教科書

大橋昭一・橋本和也・遠藤英樹・神田孝治編，2014，『観光学ガイドブッカー新しい知的領野への旅立ち』ナカニシヤ出版。

参考文献

- (1) 遠藤英樹，2007，『ガイドブック的！観光社会学の歩き方』春風社。
- (2) 矢ヶ崎紀子，2017，『インバウンド観光入門——世界が訪れたい日本をつくるための政策・ビジネス・地域の取組み』晃洋書房。
- (3) 白幡洋三郎，1996，『旅行ノススメー昭和が生んだ庶民の「新文化」』中央公論新社。
- (4) Urry, John and Jonas Lasen, 2011, *The Tourist Gaze 3.0*, London: Sage. (=加太宏邦訳，2014，『観光のまなざし 増補改訂版』法政大学出版局。)

学生に対する評価

スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（50%）を総合して評価する。